

## 平成 29 年度霞ヶ浦コンシェルジュ養成講座第一期第二回 実施報告

実施日時：平成 29 年 10 月 1 日（日）13:30-15:30 場所：霞ヶ浦環境科学センター

講師：沼澤篤（霞ヶ浦環境科学センター） 受講者数：21 名

要旨：「霞ヶ浦コンシェルジュ養成講座」第 2 回冒頭では、第 1 回の実施報告とふりかえりを受けて、解説実習の勘所を受講生に身につけていただけるように整理しました。その中で、導入部の大切さ、起承転結を心掛けること、途中にユーモアを挟むこと、よく通る発声方法、細かいことよりも基本的な知識を分かりやすく解説することなどを指摘しました。

第 2 回では、当初の対象分野は水質、生物、治水、利水。流域の土地利用など、自然科学的、ハード的なテーマでしたが、それに限らず、受講生が選んだタイトルは、鹿行地方や北浦の歴史と見どころのように、人文・社会的なテーマもありました。

実習は、受講者が一人 15 分の持ち時間で、まず約 10 分間で説明し、残り約 5 分間で質問を受ける方法で行う予定でしたが、熱意と知識が豊富な受講者が多く、20～30 分に及ぶ方もあり、時間配分が課題となりました。その中には来年の世界湖沼会議の分科会で、口頭発表またはポスター発表できる高度な内容を発表された方もあり、動機付けと発表練習の好機になりました。

今回受講者が選んだテーマは、「霞ヶ浦水運復活—江戸崎から日本橋へ」「遊泳基準から見た霞ヶ浦の水質の評価」「諏訪湖に学ぶ霞ヶ浦の環境改善」「霞ヶ浦の水質保全に関する市民の見方」「利根川東遷と水運—鹿行地方の歴史と霞ヶ浦」「釣りを通した北浦の観光振興」でした。

受講者の中には、手作りポスターやフリップを用意し、分かりやすく説明する方もいました。しかし図表が細かすぎる場合があり、改善の余地を残しました。他の方の発表を聴いて自分の発表方法の改善につなげようと、受講生の姿勢はとても熱心でした。



霞ヶ浦環境科学センターの展示室で解説実習する受講者